

2020年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2021年 3月 31日
研究・研修課題名	第22回日本骨粗鬆症学会への参加とそれに伴う認定更新に必要な単位取得
研究・研修組織名(所属)	リハビリテーション科
研究・研修責任者名(所属)	遠藤進一(薬剤部)
研究・研修実施者名(所属)	酒井康生(リハビリテーション科)、遠藤進一(薬剤部)、石川万里子、家本美佳、中井拓也、深田真衣(看護部)、川本晃平、(リハビリテーション部)、新藤陽子(放射線部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	
学会名(会期・場所)、認定名等	第22回日本骨粗鬆症学会(10月9日(金)～11月30日(月)・WEB開催)
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

近年、骨粗鬆症治療におけるリエゾン(liaison)サービスが注目されている。その目的は、骨折リスクの評価と新たな骨折の防止、また、最初の脆弱性骨折の予防であり、サービスの提供対象は大腿骨近位部骨折、その他の脆弱性骨折例や高齢者一般である。すでに英国、豪州、カナダではこのようなサービスが実施され、骨折発生率が著明に低下し医療費減少に大きく貢献したとの報告がされている。当院でも、主に再骨折予防を目的とした地域循環型の骨粗鬆症リエゾンサービスを開始しており、そのファシリテーター的な役割を担う日本骨粗鬆症学会認定の骨粗鬆症マネージャーを県内最多6名が取得している。骨粗鬆症マネージャーは地域の骨粗鬆症治療においてリーダーシップを発揮し、より実効性のある骨粗鬆症の予防と治療の普及につなげる上で重要であり、認定更新には学会参加が必須である。また、学会に参加することで骨粗鬆症に関する最新の情報や各施設でのリエゾンサービスの活動について広く知ることができる。これにより、急性期および回復期施設、開業医、行政と連携した出雲圏域を含む島根県における地域循環型の骨粗鬆症リエゾンサービス構築することに繋がる。

②方法

第22回日本骨粗鬆症学会に参加し、参加者が最新の情報を入手しスキルアップを図り、他のリエゾンメンバーおよび院内スタッフにその内容を広く報告し情報共有を行う。

③成果

今年度は新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、通常開催が断念され、Web形式による開催となったため、より多くのスタッフの参加が可能となり、計8名のスタッフが参加することが出来た。参加により、「骨粗鬆症診療支援サービス」(Osteoporosis Liaison Service、OLS)の役割を担うための骨粗鬆症に関する知識と最新の知見を取得出来、より一層充実した骨粗鬆症の予防、診断と治療を提供することが可能となった。また、同時に学会参加と指定講演を聴講することで単位を取得することが出来き、骨粗鬆症マネージャーの認定更新に必要な要件の一部を取得することが出来た。さらに、骨粗鬆症マネージャー未取得者においても、認定に必要な要件の一部を取得することが出来た。